



# ごあいさつ

ジョンソン・エンド・ジョンソンは1886年の創業以来、人々の健康を支えるべく、幅広い製品・サービスの提供に取り組んでまいりました。社会貢献活動においても、社会と人々がより健康であることを目指し、世界各地で様々な活動を行っています。

ジョンソン・エンド・ジョンソンには、企業活動を通じて「顧客」、「従業員」、「地域社会」および「株主」に対し果たすべき責任を定めた経営理念『我が信条 (Our Credo)』があります。起草以来60年以上にわたって『我が信条』はジョンソン・エンド・ジョンソンのありかたを示す指針でありつづけています。なかでも我々が生活し、働いている地域社会、さらには全世界の共同社会に対する貢献は、特に意義深いものとして、世界57ヶ国、200社以上のジョンソン・エンド・ジョンソングループ企業に受け継がれてきました。

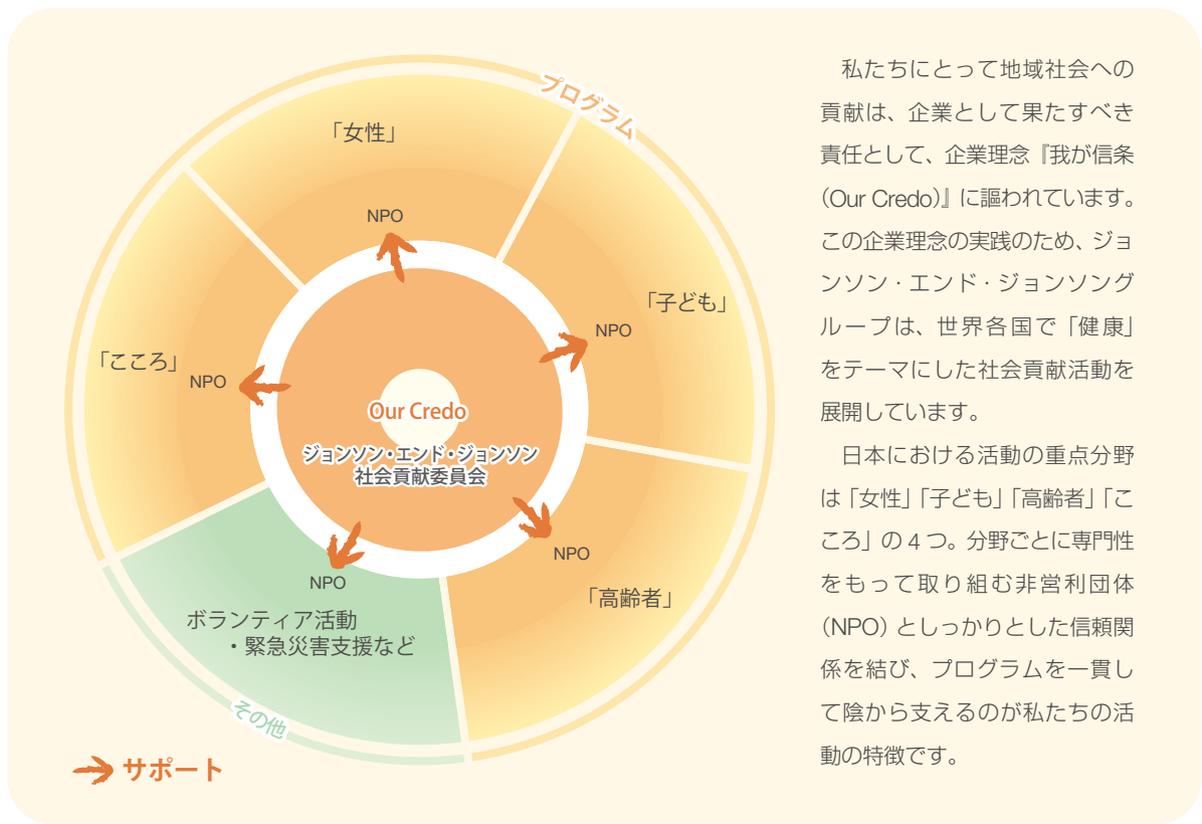
日本における社会貢献活動は、社員が自発的に参加するジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会により運営されています。業務の合間を縫って集まったメンバーが、自分たちの目線で社会と向き合い、必要とされている支援を届けるべく活動を行っています。私どもジョンソン・エンド・ジョンソンにとって、社会貢献は、一企業市民として、また社員一人一人にとっては地域社会の一員としてあるべき姿を示す、大切な活動であると受け止めています。これからも、事業を通して培った知識や経験を生かしながら、人々の健康とよりよい社会づくりのために努めてまいりたいと存じます。そして、この活動報告書を通して、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、日ごろから温かいご理解、ご協力をいただいております皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会  
委員長 大瀧 守彦

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー代表取締役



## Contents

プログラム	3
・ 子どものためのプログラム	
・ 女性のためのプログラム	
・ こころのためのプログラム	
・ 高齢者のためのプログラム	
社員のボランティア活動／緊急災害支援	10
寄付活動	11
海外での社会貢献活動	12
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会	13
『我が信条 (Our Credo)』	14

## ウェブサイトのご案内

本レポートに掲載しております内容は、当社のウェブサイトでもご覧いただけます。あわせてご覧いただくと幸いです。



<http://www.jjcc.gr.jp/>



**2007年度グッドデザイン賞受賞について**  
 ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、協働団体の発掘・選定、支援プログラムの選択・評価など、事業の総合的なデザインマネジメントが高いレベルで形になっていると評価され、財団法人日本産業デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞(新領域デザイン部門)を受賞しました。

# 子どもの安心は社会全体で守るものだから

子どもたちは未来を担う大切な存在です。社会が健全であるためには、子どもたちの健やかな成長が欠かせません。私たちは、子どもたちが安全な環境でのびのびと成長できるよう、不慮の事故を未然に防ぐための活動や、困難な状況下にある子どもたちをケアする活動を支援することで、子どもたちを見守りたいと考えています。

## 子どもの事故予防啓発

1960年以降、子どもの死因トップは「不慮の事故」です。また、死亡には至らないまでも多くの子どもが事故を経験し、障がいを残すケースも少なくありません。不慮の事故の多くは自宅や遊び場、幼稚園や保育園など身近な場所で起こります。まわりの大人たちが事故についての知識を持ち実践することが、子どもたちを事故から守ることにつながります。不幸な事故を防ぐため、大人や社会が子どもの事故についての意識を高め、適切に対応できるよう、啓発を目的とした活動を支援しました。



支援団体：財団法人東京救急協会  
<http://www.teate.jp/>



親子セミナー クイズや応急手当の実習を通じて、親子で身の回りの危険と事故の予防について学びます。

### ● セーフキッズセミナー

親子や、保育士や保健師など子どもに関わる職業とその職業をめざす学生などを対象に、子どもの事故防止と子どもに対する応急手当を学ぶセミナーを、全国で開催しました。

2007年開催地

沖縄県浦添市、福島県白河市、香川県観音寺市、東京都調布市、福岡県北九州市、東京都江東区、岐阜県高山市、東京都江戸川区



保育士・保健師セミナー 講演会と応急手当の実習を通じて、子どもの事故予防策と救命技能について学びます。

### ● 啓発ツールの制作・配布

啓発用のビデオや小冊子、カレンダーを制作し、全国の幼稚園、保育園などに配布しました。



## 思春期のライフスキル教育プログラム

友だちや家族との関係、タバコやドラッグへの誘惑など、青少年は日常生活でさまざまな困難に直面します。その困難をどのように対処するかということが、子どもたちの将来にまで影響を及ぼすこともあります。主に小中学校の教員や教育関係者を対象にワークショップを開催し、青少年が自分自身の力でこの困難を乗り越えるスキルと自尊心を身につけるためのプログラムの普及を図っています。



支援団体：特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム  
<http://www.jiyd.org/>



主に中学校の教員を対象にしたライフスキル教育実施のためのワークショップ



ワークショップを受けた教員たちが各校に戻り生徒たちにライフスキル教育を行います。

## 暴力の影響を受けた子どもたちのこころのケアプログラム

ドメスティック・バイオレンス (DV) の起こる家庭で育つ子どもは、著しいストレスにさらされ、対人関係や自我形成に問題を抱えることが多くなります。こうした子どもたちは、人間らしい感情を失ったり、自尊心を持ってないまま大人になり、自分自身が暴力の加害者になってしまうことも少なくありません。こころの傷の回復をはかり、暴力の連鎖を食い止めることを目的に、ケアプログラムのためのインストラクターの養成やプログラムの実施、教材の制作に対して助成を行いました。



支援団体：女性ネット Saya-Saya  
<http://www7.plala.or.jp/saya-saya/>



インストラクター養成講座 開催風景



「共生ポスター」と「感情ポスター」。子どもたちに、ひとりひとりの大切さやさまざまな感情があってよいことをわかりやすく伝えます。

# 女性が前向きに力を発揮できる社会であるように

女性は、よりよい社会をつくるために欠かせない役割を果たしており、社会進出にともない、ますます多くのシーンで、その活躍が求められている存在です。私たちは、女性の心身の悩みに寄り添う活動をサポートすることで、女性が前向きに力を発揮でき、輝ける社会をめざしています。

## 女性のエンパワメント

困難な立場にある女性たちが、それを乗り越え、自分らしくポジティブに生きていくためには、周囲の理解と協力が欠かせません。主に支援者を養成する活動を支援することで、問題の改善をめざしています。

### ✓ 親学習プログラム

地域のつながりの希薄化や核家族化によって子育てが孤立化する傾向があります。母親がひとりで子育てに悩み、育児放棄や虐待などに陥る深刻なケースを防ぎ、育児を楽しむためには、父親はもちろん、家族や地域からの協力などさまざまな支援が必要です。

#### ● 「スター・ペアレンティング(親学習)」プログラム 普及のためのファシリテーター養成講座開催

子育て中の親を支援している人、特に地域で子どもの虐待などの問題に取り組む人を対象とした講座が開催されました。

スター・ペアレンティングとは、5つのポイント・スキルを基礎に、自分も大切にしながら、叩かず、甘やかさず、そして楽しみながら子育てするための問題解決の方法です。



支援団体：NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西  
<http://www.osk.3web.ne.jp/~videodoc/>

### ✓ ドメスティック・バイオレンス (DV) 被害者女性自立支援

内閣府の調査では、成人女性の3人に1人がドメスティック・バイオレンス (DV) 経験者。パートナーとの信頼関係の喪失や暴力への恐怖は、その人の一生に影響を与えるほどところに大きな傷を残します。こころの傷の回復なしでは、本当の意味での自立は難しいと言えます。こうしたDV被害者女性が自分らしさを取り戻すためのこころのケアを全国に普及するためのプログラムをサポートしました。

#### ● 「こころのCare講座」全国普及のための活動 「入り口講座」「ファシリテーター養成講座」開催

レジリエンスが主催する「こころのCare講座」は、DV被害者女性がDVの様々な形態やトラウマに対するための対処法、人との境界線、より良いコミュニケーションの方法、家族や自尊心など12のテーマについて学びながら、自分自身の力でこころの傷つきを回復するための講座です。「こころのCare講座」が全国的に実施されることをめざし、各地で認知拡大のための「入り口講座」と「ファシリテーター養成講座」を開催しました。

入り口講座開催：沖縄、札幌、名古屋、福岡  
 ファシリテーター養成講座開催：東京(7月、9月、11月)



ファシリテーター養成講座 開催風景



支援団体：特定非営利活動法人レジリエンス  
<http://www.resilience.jp/>

## 女性の体とこころの健康情報

女性のからだは生涯のうちに何度も変化します。しかし、情報が限られていたり相談しづらいために、ひとりで不安になることが少なくありません。女性が自分の健康について正しい知識を持ち、適切な意思決定ができる環境づくりのひとつとして、女性向けの健康情報を提供しています。

### ✓ ウーマンズヘルスウェブ



 <http://jfpa.info/wh>

女性のからだやこころの健康に関するウェブサイトです。健康に不安があるときの情報源のみならず、日常生活に活かせる内容も充実しています。

 支援団体：社団法人日本家族計画協会  
<http://www.jfpa.or.jp/>

### ✓ ガールズナビ



 <http://girlsnavi.jp/>

10代20代の女性向けに、性や健康への意識を高めることを目的とした携帯サイトです。

 支援団体：社団法人日本家族計画協会  
<http://www.jfpa.or.jp/>



### ✓ 声の花束



 <http://www.koetaba.net/>

視覚障害や活字メディアによる情報の入手が困難な女性のために、「ウーマンズヘルスウェブ」の情報を音声で発信するウェブサイトの運営を支援しています。

 支援団体：社団法人日本フィランソロピー協会  
<http://www.philanthropy.or.jp/>

### ✓ 女性のための健康セミナー



女性関連施設で健康に関するセミナーを開催しています。セミナーの内容は小冊子にまとめ、より多くの女性に届くよう全国の女性関連施設に配布しています。

 支援団体：財団法人主婦会館  
<http://www.plaza-f.or.jp/>

## HIV/AIDS 啓発活動

HIV/AIDSの広がりは今や全世界共通の問題になっており、日本も例外ではありません。

女性に深刻な影響を及ぼす性感染症防止への取り組みの中で、HIV/AIDS啓発活動を支援しています。

### ✓ 高校生を対象にした高校生による HIV/AIDS 予防啓発



「高校生エイズフォーラム」(平成6年スタート)を各地に紹介し、活動の拡大を目的とするDVD制作・配布。全国的にも珍しい高校生による高校生への予防啓発活動としての取り組みです。

支援団体：神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会

### ✓ 若者向けフリーペーパー「RE:LIGHT」



「保健室でもカフェでも読める」をコンセプトに、若年層、特に高校生に向けてHIV/AIDSの正しい知識や予防法などを掲載した無料小冊子を制作しました。

 支援団体：早稲田大学公認イベント企画サークル qoon  
<http://www.qooner.net/>

## こころの健康を大切にできる社会であるように

こころの健康は、からだの健康と同じように大切です。しかし、現代社会においては、さまざまなストレスからこころの健康を損なう人が少なくありません。私たちは、精神疾患に対する社会的理解を促すための活動や、自殺を防止するための活動を支援することを通じて、当事者やその家族を支えています。

### 自殺防止プロジェクト

日本では1998年以降、毎年3万人以上の方が自殺で亡くなっています。理由はさまざまですが、社会的な弱者が「死」へと追い詰められていく実情があるとされています。また、遺された人々は、長期にわたって深刻な心理的影響を受けると考えられています。既に社会問題となっている自殺の問題により適切で効果的な解決方法を推進するための対策に取り組む人々のネットワークづくりと、遺族のこころのケア活動を支援しています。



支援団体：特定非営利活動法人自殺対策支援センター  
ライフリンク  
<http://www.lifelink.or.jp/>

### ✔ 自死遺族支援

既遂、未遂に関わらず、自殺を図った人と強い絆のあった最低5人は深刻な心理的影響を受けると考えられています。特に、自死遺族は最愛の家族を亡くした辛い気持ちがあるにもかかわらず、社会の自殺に対する偏見や誤解によってさらに苦しい立場に追い詰められています。

心に深い傷を負う自死遺族のこころのケアを目的に、地域で自死遺族「分かち合いの場」を立ち上げるための支援をしました。

### ✔ 世界自殺予防デーフォーラム

自殺対策に取り組む人々の立場を越えたネットワークづくりによって、自殺対策をより有機的に機能させ、実践的な取り組みに発展させるための活動を支援。日本各地で自殺対策に取り組む民間団体や、医療関係者、弁護士、司法書士、報道関係者など約30人が集い、自殺対策における地域のネットワークのあり方を検討しました。



具体的な先進事例をもとにした活発な意見交換が行われました。



立場を越えたネットワークづくりが、より有機的かつ実践的な取り組みになると期待しています。

## 軽度発達障がいの子どもと親を支援

日本では約5%の子どもがADHD(注意欠陥/多動性障害)といわれています。しかし、新しく認められた障がいであるために日常生活での適切な対応方法は確立されておらず、多くの親や子どもが困難を抱えています。早期のプログラム開発が社会的に必要とされています。

### ✓ ADHDの小学生を対象とした行動学習プログラム

ADHDは、注意力・衝動性・多動性を自分でコントロールできない障がいのため、忘れっぽい、考えずに行動する、落ち着きがないといったことから周りから理解されず、社会生活に困難をきたすことがあります。子どもたち自身が望ましい行動を選ぶことを習得・実践できるようになることを目的とし医療の専門家や臨床心理士の有志が主催する、夏休みを利用した集中治療プログラムの開催をサポートしています。

支援団体：久留米市サマー・トリートメント・プログラム研究会



活動の合間のポイントチェックの時間にその時の活動が適切だったか不適切だったか評価されます。



ゲームのルールを守れなかったり運動が苦手な子が多いためスポーツスキルを学んでいきます。

### ✓ ADHDの子どもをもつ親支援 ～ペアレントトレーニング～

ADHDへの認知がまだ十分とはいえない状況のために、子どもがある程度成長するまで発見されないというケースが少なくありません。しかし、幼児期に発見し適切な対応をすることができるかどうかはその後の生活の質に大きく影響します。また、一般的な子育てと異なる困難を抱える親に適切な子育てを伝えることで、親の育児ストレスも低減できます。全国で啓発用のリーフレットを配布したり、アメリカで確立された親支援プログラムの普及をはかる活動を支援しています。



支援団体：NPO法人えじそんくらぶ  
<http://www.e-club.jp/>

## 精神障がいをもつ人々の家族支援

精神障がいに対する社会の誤解や偏見は根強く、障がい者本人だけでなく家族も病気についての知識がなく、適切な援助方法もわからず、肩身が狭く辛い思いをしています。統合失調症の患者家族を対象に、家族同士が学び合う「家族学習会」普及活動を支援することで、同じ困難を共有する当事者同士のセルフヘルプ活動を後押しします。



支援団体：地域精神保健福祉機構  
<http://www.miraclegate.com/comhbo/>

## 世代を越えて輝ける社会をめざして

年齢とともに身体機能が低下したり、周囲とのつながりを失うことで、不安や孤立感を持つ高齢者は少なくありません。高齢者が充実して過ごせることは、希望ある社会を形成する上で大切なこと。また、高齢者の豊かな経験と知識を共有できないことは若い世代の損失でもあります。私たちは、世代間の交流や共生をテーマにした活動を支援します。

### 世代間交流「寺子屋回想法」

高齢者のこころの活性化を促す試みとして、高齢者と若い世代が集い、同じ体験を通して語り合う場を設けたり、教材のビデオを制作しています。高齢者には、自分の記憶を若い人々に伝え、受け入れられることによって自分自身の人生を価値あるものと再確認することにつながります。また、若い世代にとっては、人生の先輩から大切なものを学ぶ機会となります。お互いの存在を認め合いながらこころを支え合うことをめざしています。

支援団体：上智大学総合人間学部黒川研究室



### ✓ リーダー養成ワークショップ

高齢者と若者世代の豊かな交流をめざした「寺子屋回想法」を全国各地へ広げていくために、その地域、その人ならではのプログラムを企画・運営できるリーダーを養成するワークショップを開催しました。参加者たちは一定期間の実践の後、発表会でお互いの活動を共有し、さらに効果的な取り組みをめざします。



### ✓ 教材ビデオ制作

「三世代家族」「寺子屋回想法」「おいから学ぶ」の3種類を制作しました。寺子屋回想法の実施を検討する地域や学校などで教材として使用されています。



## 社員のボランティア活動

企業としての社会貢献活動だけでなく、社員ひとりひとりが自分の身近なところや関心がある分野でボランティア活動に取り組むことをめざしています。ボランティア活動への参加をサポートするため、社内へボランティア情報を発信しています。

### ○ 盲人マラソン (第25回日本盲人マラソン東京大会)

視覚障がい者と晴眼者がいっしょに走るマラソン大会に、視覚障がい者ランナーのガイド役となる伴走ボランティアや、大会運営ボランティアとして参加しました。

主催：日本盲人マラソン協会



### ○ 声の花束

活字メディアによる情報入手が困難な人々のために、情報を人の声で配信するインターネットサイト「声の花束」に、社員が音訳ボランティアとして参加しました。

主催：日本フィランソロピー協会



### ○ 東京マラソン

第1回、第2回大会続けて給水ボランティアとして参加。東京都内を駆け抜ける約3万人のランナーをサポートしました。

主催：日本陸上競技連盟、東京都



### ○ ほほえみフェスタ

千代田区内の高齢者施設で開催された施設利用者さんと地域の人々の交流イベント「ほほえみフェスタ」に、会場設営や高齢者の方への付き添い、メイクボランティアとして参加しました。

主催：多摩同歩会 岩本町ほほえみプラザ



## 緊急災害支援

自然災害によって大きな被害がもたらされた国や地域に対して、被災した人々の生活やコミュニティーの再建を支援する活動を行っています。社員からの募金に会社からの拠出金を加えた寄付金や被災地のニーズに合った製品を送っています。

### ○ ジャワ島地震

2006年5月27日にジャワ島でマグニチュード6.3の大地震が発生し、死者数約5,800人、負傷者約3万人、約13万人が避難民としての生活を強いられました。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、社員からの募金に会社からの拠出金を合わせて合計200万円をユニセフをつうじて寄付し、子どもたちへの医療支援や、学校再開など資金の一部として役立てられました。また、アメリカ本社とアジア・パシフィック各国のジョンソン・エンド・ジョンソングループからも、手術用の縫合糸やガーゼ等の製品とともに寄付金を送りました。



©UNICEF / HQ06-0628 / Josh Estey 提供：日本ユニセフ協会



支援団体：財団法人日本ユニセフ協会  
<http://www.unicef.or.jp/>

# 寄付活動

社員から申請された非営利団体に対して、寄付を行っています。自らボランティアとして参加する団体、活動を応援している団体など、社員の社会貢献への気持ちがジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の取り組みにもつながっています。

## KIDS

KIDSは、さまざまなハンディをもった子どもたちを支援するボランティアグループです。1992年に企業で働く人たちが中心となって活動をスタートしました。「Knowing Is Doing Something. やってみれば、分かる」をモットーに、一般社会人と障がい児施設・児童養護施設で生活する子どもたちや難病の子どもたちがふれあうことによって、子どもたちの社会性の発達を促進すると同時に、社会人自身が社会の問題に気づき解決策を見出すことをめざしています。



さまざまな企業の社員にボランティアを呼びかけ、定期施設訪問や子どもたちを東京ディズニーランドに連れていく「KIDSプロジェクト」、サマースクール、体験旅行などの活動を行っています。

これらのKIDSの活動にジョンソン・エンド・ジョンソンの社員ボランティアが参加するとともに、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会からは、運営費用の一部を寄付しました。



支援団体： KIDS  
<http://www.kids-npo.com/>



ジョンソン・エンド・ジョンソン  
コンシューマーカンパニー

金子 昭雄

日頃から出身地・茨城のために貢献できるという思いを抱いていたところに、KIDS主催で茨城県の児童養護施設でのボランティア活動があることを知り参加しました。当日はクリスマス会で、朝からケーキを作ったり、歌やパフォーマンスの発表会を楽しんだり1日子どもたちと一緒に過ごしました。

児童養護施設は、家庭の事情などで親と生活をともにできない子どもたちが暮らしています。そのためか大人とのふれあいを求めている様子で、すぐに自分から私のひざの中に入ってきたり身体を寄せたりする子どももいます。また子どもだけでなく、そこで働く職員さんたちの苦勞を知る機会になり頭が下がりました。

最初に行ったクリスマス会の発表会で「何か出しものはできないですか?」と言われ、何もできなかったのですが、2回目の参加となった先日は歌を準備して披露することができました。

KIDSプロジェクトはこういった施設の子どもたちが楽しみにしている年に1度の大イベントです。これからも、自分ができることや会社の制度を通じて、KIDSの活動を応援していきたいと思います。

## その他の寄付先 (50音順)

- ・アウトリーチ
- ・あしたの会・すみだ
- ・アジア眼科医療協力会
- ・いのちの電話
- ・イルファー釧路
- ・円ブリオ基金センター
- ・KIDS
- ・キャンサーネット・ジャパン
- ・蜘蛛の糸
- ・グリーンウェーブ
- ・神戸カンファレンス
- ・心といのちを考える会
- ・こころに平和を実行委員会
- ・子育てコンビニ
- ・こどもプロジェクト
- ・国際三角ベースボール協会
- ・埼玉県膠原病友の会
- ・山友会
- ・障がい児の積極的な活動を支援する会にわとりクラブ
- ・小児神経難病をもつ児と家族を支援する会
- ・精神障害と社会を考える啓発の会
- ・全国パーキンソン病友の会 愛知県支部
- ・そらぶちキッズキャンプを創る会
- ・チャイルド・ケモ・ハウス
- ・Tokyo Lighthouse
- ・トークパフォーマンスグループこうばこの会
- ・難病のこども支援全国ネットワーク
- ・日本IDDMネットワーク
- ・日本ALS協会 千葉県支部
- ・日本チェアスキー協会
- ・日本ムコ多糖症親の会
- ・日本盲人マラソン協会
- ・ピンクリボンの会「ソフィア」
- ・ブーゲンビリア
- ・フードバンク関西
- ・ほっとけない世界のますしさ

## 海外での社会貢献活動



ジョンソン・エンド・ジョンソングループでは、「いのちの救済と生活の改善」「ヘルスケアにおけるスキルとキャパシティの向上」「疾病の予防」を3本の柱に、世界各地で社会の課題の解決をめざした社会貢献活動を行っています。

### ○ いのちの救済と生活の改善

#### Saving & Improving Lives

##### 【インド】教育をつうじた児童労働の解決

Prathamはインドで慣例的に行われる児童労働を削減し、最終的には撲滅することをめざして活動している非営利団体です。

ムンバイだけでも30,000人の子どもたちがPrathamからの支援を受けてきました。2005年以来、15,000人以上の子どもたちが街の労働から開放されましたが、未だ4,000人が支援を受けられず労働に就いていると推測されています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、Prathamが地域の保健センターをつうじて行っている元児童労働者であった子どもたちへの教育をサポートしています。センターでは子どもたちが労働から開放され子どもらしい生活を取り戻せるように継続的な支援を行うとともに、学校や家族に戻るための準備を整えます。



### ○ ヘルスケアにおけるスキルとキャパシティの向上

#### Building Skills & Health Care Capacity

##### 【インドネシア】助産師の技術水準向上

インドネシアでは毎年20,000人の女性が、妊娠や出産で命を落としています。また、165,000人の乳児が出生前、出生中、または出生直後に亡くなっています。助産師たちは国中のあらゆる地域で、ほぼ半数の出産に立ち会っていることから、産科医療の改善のために非常に重要な役割を担います。ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、インドネシア助産師協会 (IBI) が運営する助産師の技術向上トレーニング Bidan Delima プログラムを、2003年の発足当初から支援してきました。2007年は、全国約600人の助産師を対象に行われたトレーニングに対して必要な資金を提供しました。また、安全なお産のためのトレーニングビデオの改訂版が協会により作成され、国内76,000人の助産師のトレーニングに役立てられます。



### ○ 疾病の予防とスティグマの軽減

#### Preventing Diseases & Reducing Stigma

##### 【中国】エイズ孤児への支援

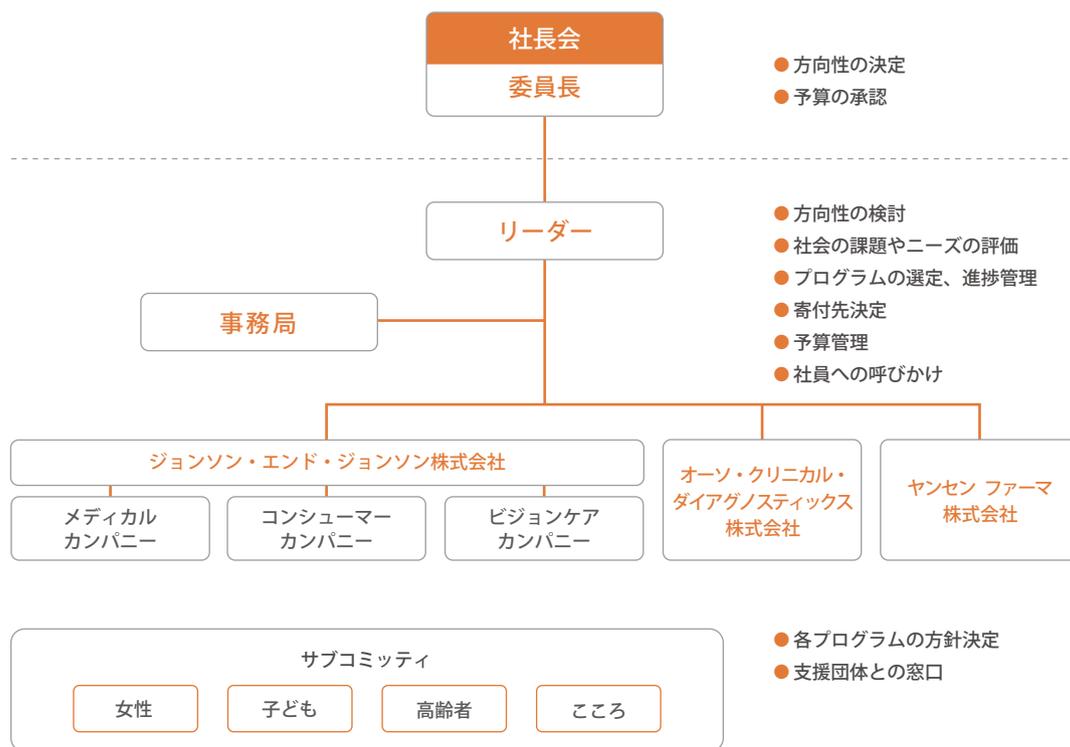
安徽省阜陽 (Fuyang, An Hui Province) では、売血をつうじて親がHIVに感染し、その結果孤児になった子どもが少なくありません。子どもたちは養父母の家などで生活していますが、エイズで親を亡くしたという社会からの偏見 (stigma) によってところに深い傷を受けています。

2003年12月に設立されたエイズ貧困児童支援協会 (Fuyang AIDS Orphan Salvation Association) は、HIV/AIDSに関連する社会の偏見や差別の解消をめざして活動しているNGOです。ジョンソン・エンド・ジョンソンからのサポートを受けて、中国東部安徽省においてHIV/AIDSの影響を受けた子どもたち400人以上を援助しています。また、基本的な健康や教育のために必要とされる費用や、物資、職業訓練、そしてところのケアの提供をつうじて、20の地域で200家族以上を支援しています。



# ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社(メディカル カンパニー、コンシューマー カンパニー、ビジョンケア カンパニー)、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社、ヤンセン ファーマ株式会社が、共同でジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会を結成し、各グループ企業から参加する社員が中心となって活動を推進しています。



ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

## メディカルカンパニー

外科、内科をはじめ幅広い診療領域で最新の医療機器・関連製品を販売しています。最先端医療のための技術導入や、患者さんの負担を軽くするための製品を通して、クオリティ・オブ・ライフの向上に取り組んでいます。

## コンシューマーカンパニー

救急ばんそうこうなどのウインドケア製品、歯ブラシなどのオーラルケア製品のほか、ベビー、ティーンおよびアダルト向けのスキンケア用品など、日々の暮らしに欠かせない衛生用品や化粧品を幅広く提供しています。

## ビジョンケアカンパニー

1991年日本初の使い捨てコンタクトレンズを発売して以来、コンタクトレンズ市場を大きくリードしてきました。現在、タイプの異なる9種類の製品をラインナップし、目の健康とビジョン(視力・視界)の質の向上に貢献しています。



## オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

輸血・感染症・生化学・免疫血清など、臨床検査の各分野において、多様な臨床検査診断薬・機器システムおよび情報の提供を行っています。人にやさしい医療をめざして技術開発に取り組んでいます。



## ヤンセンファーマ株式会社

中枢神経系領域、鎮痛・麻酔領域、真菌症領域、がん領域の4つの重点領域で最先端の医療用医薬品を日本に導入、販売しています。また、最新の医薬品情報を医療の現場に提供し、医療と医薬の発展に貢献しています。

# 我が信条

Our Credo

我々の第一の責任は、我々の製品およびサービスを使用してくれる医師、看護師、患者、  
そして母親、父親をはじめとする、すべての顧客に対するものであると確信する。  
顧客一人一人のニーズに応えるにあたり、我々の行なうすべての活動は質的に高い水準のものでなければならない。  
適正な価格を維持するため、我々は常に製品原価を引き下げる努力をしなければならない。  
顧客からの注文には、迅速、かつ正確に応えなければならない。  
我々の取引先には、適正な利益をあげる機会を提供しなければならない。

我々の第二の責任は全社員——世界中で共に働く男性も女性も——に対するものである。  
社員一人一人は個人として尊重され、その尊厳と価値が認められなければならない。  
社員は安心して仕事に従事できなければならない。  
待遇は公正かつ適切でなければならない。  
働く環境は清潔で、整理整頓され、かつ安全でなければならない。  
社員が家族に対する責任を十分果たすことができるよう、配慮しなければならない。  
社員の提案、苦情が自由にできる環境でなければならない。  
能力ある人々には、雇用、能力開発および昇進の機会が平等に与えられなければならない。  
我々は有能な管理者を任命しなければならない。  
そして、その行動は公正、かつ道義にかなったものでなければならない。

我々の第三の責任は、我々が生活し、働いている地域社会、  
更には全世界の共同社会に対するものである。  
我々は良き市民として、有益な社会事業および福祉に貢献し、適切な租税を負担しなければならない。  
我々は社会の発展、健康の増進、教育の改善に寄与する活動に参画しなければならない。  
我々が使用する施設を常に良好な状態に保ち、環境と資源の保護に努めなければならない。

我々の第四の、そして最後の責任は、会社の株主に対するものである。  
事業は健全な利益を生まなければならない。  
我々は新しい考えを試みなければならない。  
研究開発は継続され、革新的な企画は開発され、失敗は償わなければならない。  
新しい設備を購入し、新しい施設を整備し、新しい製品を市場に導入しなければならない。  
逆境の時に備えて蓄積を行わなければならない。  
これらすべての原則が実行されてはじめて、株主は正当な報酬を享受することができるものと確信する。

Johnson & Johnson

**ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献委員会**  
**Johnson & Johnson Contribution Committee**

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、「ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社」、「ヤンセン ファーマ株式会社」、  
「オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社」で構成されています。

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3 丁目 5 番 2 号 TEL: 03-4411-6720 FAX: 03-4411-6794

URL: <http://www.jjcc.gr.jp/>

